

令和3年度第2回いなべ市グリーンインフラ推進協議会 会議録

会議名	令和3年度第2回いなべ市グリーンインフラ推進協議会
開催日時	令和4年3月28日(月) 14:00～15:00
開催場所	いなべ市役所シビックコア棟
出席者	<p><b>【委員長】</b>1名 西田貴明</p> <p><b>【委員】</b>14名(欠席1名:林幸喜) 粟井晴香、辻清成、椎原未来、片山多賀子、里中知之、諸岡章弘、橋本雅史、岡崎拓哉、齊藤義喜、水谷智仁、小林正樹、三橋尚悟(代理出席)、藤田尚人(代理出席)、後藤健宏</p> <p><b>【事務局】</b>5名 農林商工部長、商工観光課長、商工観光課職員2名</p> <p><b>【オブザーバー】</b>5名 (オンライン) 国土交通省総合政策局環境政策課 (現地) 三重県県土整備部都市政策課、京都産業大学、桑名三重信用金庫</p>
会議次第	<p>1 開会</p> <p>2 委員長挨拶</p> <p>3 議事</p> <p>4 その他</p>
配布資料	<p>事項書</p> <p>出席者一覧・座席表</p> <p>資料 1_【いなべ市】にぎわいの森効果検証まとめ</p> <p>資料 2_第1回いなべ市グリーンインフラ推進協議会ヒアリングシート(まとめ)</p> <p>資料 3_いなべ市グリーンインフラ推進基本方針</p> <p>資料 4_いなべ市グリーンインフラ推進基本方針に関するヒアリングシート</p> <p>参考資料 1_にぎわいの森施設利用者アンケート集計結果</p> <p>参考資料 2_にぎわいの森職員アンケート集計結果</p> <p>参考資料 3_にぎわいの森市内事業者アンケート集計結果</p> <p>参考資料 4_令和3年度社会人講話報告書</p> <p>参考資料 5_三重県いなべ市SDGs未来都市計画</p> <p>参考資料 6_inabe にぎわいプラン To road to2024</p>
公開、非公開の別	公開
非公開の理由	—
傍聴人の数	0人
議事概要	
<p><b>1 開会</b> <b>(事務局挨拶)</b></p>	

## 2 委員長挨拶

### (西田委員長挨拶)

#### (西田委員長よりグリーンインフラの概要)

グリーンインフラとは自然の機能を賢く利用することで持続可能な社会と経済を発展させていくこと。国土交通省の定義でも、自然を守るということではなくて、それを地域の防災や経済を変えていくという、2015年ごろからの新しく、幅広い考え方である。

環境分野でもいろいろなキーワードがある。かつては自然と人との関わりのなかで開発が起こり、「守らなければいけない」という考え方が生まれた。10年くらい前からは「生物の多様性を守らなければいけない」という概念も出てきている。

持続可能な社会を作り上げようという考え方も、2010年くらいから世界中で言われた。そういった考え方は大事でこれまでずっと進められてきている。

グリーンインフラという言葉ができたのにはもう少し別の観点があった。

日本中どこでも問題になっている人口減少による里山の劣化、森林の荒廃、それによっておこる災害リスクの高まり、自然を変えすぎることによって地域の問題になっていることが懸念されている。「もう少し適切に活用することで地域や社会に役に立つことが出てくるのでは」という、守りから攻めというような、自然を活用するという考え方に変化している。

グリーンインフラ、地域循環共生圏、NBS(ネイチャーベースドソリューション/自然を活用した解決策)などが、日本だけでなく世界中で関心を持たれている。SDGs、気候変動対策の動きの中でグリーンインフラを活用しようという動きが非常に高まっている。

グリーンインフラは自然空間に関わるほぼすべてに関わり、地域スケールまちスケールで考えると、色々なことが期待される。

#### <京都府の花壇の事例>

切れ目がある花壇で大雨でも水を貯められる。花壇があることでまちに緑があることにプラスして、水を貯めたりきれいにしたりする効果がある。「自然がありいいな」だけではなく、防災や地域づくりに貢献したり、地域社会にとってプラスの効果が期待できる。京都では5か所位つくられている。

#### <静岡県の遊水地の事例>

遊水地は防災のために作られている。ここでもいろいろな取り組みがされている。地域の活性化、にぎわいの創出、希少種の保護など、防災目的の取り組みのなかに色々な機能を付加している。

#### <ポートランドの事例>

小さな遊水地を活用し、うまく地域づくりをしている。ポートランドはアメリカのなかで1、2番で住みやすいまちと言われているが、かつてはそうでなかった。

20年ほどかけグリーンインフラを進めた先進都市として世界中で有名になった。小さな水用地、緑地をまちなかにたくさんつくって、活用するしくみを整える。ハードとしてつくるだけでなく、活かす取り

組みを行った。計画を整え、イベントとセットにした。地域住民に関わってもらい、モニタリングできるしくみを整えた。ハードを活かしつつ地域活性化につなげる。いまでも続けている。

小さな空間だけでは防災上なかなか役に立たないが、かなりの数がある。災害リスクも下げ、下水道処理施設のコストを下げ、生き物の生息の場、市民の交流の機会ができてきた。外から人が来て、住む人、訪れる人がどんどん広がっていく。

その結果、経済的にも循環し、新しい取り組みがさらに周る。正のスパイラルが10年、20年と積み重なり世界的にも有名な都市になる。

こういう緑を活用したまちづくりは日本でもできるようになってきている。

まちなかだけでなく農村部、荒廃地にもグリーンインフラの考え方が適用できる。

緑地中心に、広い視点で見ると農地、森林を手入れすることでいろんな機能を発揮できる。

例えば、日本中で田んぼダムがすすめられ、災害リスクを低減する取り組みも広がっている。豊岡市では、拠点整備、農村整備、森林整備と組み合わせ、地域ブランド化に関係している。

地域の中でいろんな資源、しくみを活かしながらやることで豊かにできないかなということが、2015年から2020年くらいにかけて色んな域ですすめられてきた。

色んなタイプがあるが、共通するのは自然の機能を活用すること。考え方のアプローチがこの5年かけて国の色んな計画に位置付けられてきている。一部になるが、国土交通省の国土形成計画、利用計画に位置付けられて以降、色々な整備、計画の中に掲げられてきている。

経緯として国土交通省ではグリーンインフラ推進戦略が2019年につくられている。グリーンインフラを使う機会、方法、進め方が定義されている。それと共に自治体、地方でグリーンインフラを計画に盛り込もうというところが増えている。みどりの基本計画、総合計画などに、グリーンインフラを取り込もうというものがある。

一方で、自治体でどう進めたらいいか課題もある。はじめてのことで、予算的にも難しく、部署もまたがる、ということで色々な議論がある。

解決するには、色々な主体の方が「自然を活用して経済を回そう」という情報共有をする場が大事。

連携、情報共有するためのプラットフォームが必要ということで、2020年にグリーンインフラ官民連携プラットフォームができた。官公庁、民間企業、個人誰でも入れる。情報共有、セミナー、研究をしたり、資金調達を考えたりしている。またホームページを見ていただければと思う。

(※各委員自己紹介)

グリーンインフラの推進の中で大事なものはそれぞれの分野でご活躍の方が議論できる場があること。ぜひこの形ですすんでいくとよい。

### 3 議事

#### (事務局より全体説明)

いなべ市では令和元年5月にオープンしたにぎわいの森から、グリーンインフラの横展開を通し、まちの魅力を向上させ、住みやすいまちづくりを目指している。そこで、今年度、国土交通省の支援を受けてにぎわいの森のグリーンインフラとしての効果を測定した。

#### (1)グリーンインフラの取り組みについて(資料1、資料2)

##### (事務局より説明)

<資料1【いなべ市】にぎわいの森効果検証まとめ>により説明。

<資料2 第1回いなべ市グリーンインフラ推進協議会ヒアリングシート(まとめ)>により説明。

グリーンインフラの活用のご指摘がなかった課題についても、通し番号1「多様なニーズに対応した公園づくり」、通し番号10「にぎわいの森を SA の一部として利用する」などの課題は、グリーンインフラの取り組みにより自然の機能を活用し、解決つなげる可能性がある。

通し番号10「その他」欄のとおり、事前にご質問・ご提案頂いた事項について回答する。

質問(1)にぎわいの森の利用状況は、参考資料1「にぎわいの森施設利用者アンケート」3ページのとおり、訪問者の22.7%が市内在住者、47.9%が三重県内在住者、28.9%が三重県外の在住者となっている。

質問(2)のにぎわいの森6店舗の現状と課題は、コロナ禍ではあるが、屋外施設ということもあり、参考資料1の10ページに記載のとおり「快適に過ごせる」「景観が良い」という効果があらわれ、オープン初年度は44万人、コロナ禍となった令和2年度、3年度も40万人弱の来場があり、グリーンインフラとしての機能が発揮されたと考える。

質問(3)のブルーチップファームの状況につきましては、今年の秋に収穫とワイン製造との報告を受けている。

また、ご提案いただいた「文化の森」は、森の中にミュージアムや、自然観察の森があり、にぎわいの森効果検証により課題として示された「子ども連れで滞留できる空間」や「市民が日常的に利用できる機能」の拡充の参考になる事例であり、今後、視察等も含めて情報収集を行いたいと考えている。

#### (質疑応答)

##### 委員

授乳施設がにぎわいの森にはなく、行政棟にしかない。お手洗いやわかりづらい。

## 事務局

授乳施設はシビックコア棟にもあるが、わかりづらい。お手洗いの場所を含めわかりやすくする必要があると思う。

## 委員長

経済的効果は予想以上だったのか現在の感触を教えてください。  
評価しきれなかった部分や、評価が難しかった部分などあるか。

## 事務局

経済波及効果を毎年測定していて効果が出ている。課題は、にぎわいの森を整備させていただいているが持っているデータが少なすぎる。アンケートで補完出来たが、まだ点線部分(資料1 3ページ)が数字的な効果が不足している。

## (2)いなべ市グリーンインフラ推進基本方針素案について

### (事務局より説明)

<資料3 いなべ市グリーンインフラ推進基本方針>により説明。

### (質疑応答)

#### 委員長

高校生アンケートについてご説明いただきたい。

#### 事務局

<参考資料4 令和3年度社会人講話報告書>

これまでINA-CON事業として、いなべ総合学園高等学校にいなべ市の計画や事業の紹介を行っている。いなべ市に住んでいる学生も、通っている学生もいるが、人口減などいなべ市の状況を知っていただいた上で、これからどうしたらいいのか高校生に考えていただく。

これまで北勢線を活用した電飾やひまわり畑など実現した計画もある。

今回はグリーンインフラという視点を加え提案をした。20ページ以降が、1年生に説明させていただいた資料。学校近くの空き地の使い方をベースにということで考えていただき、6~9ページが結果である。カフェやアスレチック、公園の声が多くあった。

グリーンインフラを「知っていた」という学生もいた。「興味を持てた」「わかりやすかった」という感想も頂いた。今後もこの視点を加え、市内の唯一の高等学校であるいなべ総合学園でも授業をしたいと考えている。

#### 委員長

若い方にもグリーンインフラは受け入れられやすい。若い人が協力していただける流れになっていくとよいと思う。ぜひそういった視点が今後議論できればいいと思う。

前向きで多岐に渡るアイデアですばらしい。授業を活かし意見を収集することが推進にとって重要。

職員アンケート、施設利用者アンケートも充実したアンケートになっている。職員が回答している事例はあまりない。実際に関わる人が関心を持っているかがポイントになる。にぎわいの森の良さが評価されているのではないかと思う。

## 事務局

<参考資料 2\_にぎわいの森職員アンケート集計結果>

300人弱にお答えいただいた。

旧4庁舎を経験した人がこちらに移ってきており、多くの方がリフレッシュ効果を感じている。お昼や帰りににぎわいの森に行っている。

旧大安庁舎は桜が見えたが、その他の庁舎はそれ程自然を感じられなかった。そこから移ってきたことでリフレッシュ効果を感じることができたのではないか。

市民も思った以上に来ているのではないか。屋外施設でコロナにも強いということで、グリーンインフラの効果がでてきているのではないか。

## 4 その他

### (事務局より連絡事項)

令和4年度6月～7月に第3回を開催する。

本日お伺いしたいなべ市グリーンインフラ推進基本方針確定が主な議事となる。